

11月例会「誰もが愛しいチャンピオン」

カンパなどの協力に感謝いたします

朝夕めっきり涼しくなり、紅葉も見ごろとなってきました。

10月の運営委員会は久々に全員集合で、8人が集まりました。やっぱりみんなが揃うだけで楽しさが倍増します。話題の中心は切手と20周年の企画。

9月例会で運営の厳しさをお話したところ次の日、ポストにたくさんの切手が入った封筒が届きました。会員さんから郵送代の一部にと今まで収集していた切手、10円、15円、20円、40円、50円、60円等々528枚。あて名書き担当の運営委員さんが、絵柄を楽しみながら封筒に切手を貼ってくれました。他にも切手を送って下さった方、書き損じの葉書を切手に交換してくれた方も。また、カンパは14,691円でした。ご協力ありがとうございました。

今後も新入会の呼び掛けや、カンパ・書き損じの葉書や切手のご寄附などご協力をお願いいたします。新型コロナウイルス感染の収束はまだ先が見えませんが、感染予防の対策を取りながら11月例会を開催します。例会の参加にあたっては、①自宅で体温を測定 ②体調の悪い時は参加しない ③入館時には手指の消毒、マスク着用 ④「3密」にならないようなるべく周囲の方と距離をおく、のルールを守って楽しく映画を楽しみましょう。

例会のお知らせ

■名称／第109回例会『誰もが愛しいチャンピオン』

■日時／2020年11月26日(木)

①PM2:00～、②PM4:20～、③PM6:40～

■場所／加古川総合文化センター大会議室

(JR東加古川駅から北へ徒歩10分、車は加古川バイパス加古川東ランプ北東へ600m)

■受付／入会手続きが終わっている方は、受付に同封の「例会参加券」をお渡しください。入会手続きしていない方は、受付で4箇月分の会費(2000円)を支払い、入会手続きを終えてから「例会参加券」をお受取りください。

【例会作品データ】

■タイトル／誰もが愛しいチャンピオン

■監督／ハビエル・フェセル

■出演／ハビエル・グティエレス、ホアン・マルガリョ、アテネア・マタ、セルヒオ・オルモス、フラン・フエンテス、ロベルト・チンチージャ

■データ／2018年、スペイン、118分

■ジャンル／ヒューマン、スポーツドラマ



■ストーリー／プロ・バスケットボールのコーチ、マルコは“負ける”ことが大嫌いなアラフォー男。ところが短気な性格が災いして問題を起こし、チームを解雇されてしまう。その上、飲酒運転事故を起こし、判事から社会奉仕活動を命じられたマルコは、知的障がい者たちのバスケットボール・チーム“アミーゴス”を指導するはめに。アミーゴスの自由過ぎる言動にはじめは困惑するマルコだったが、彼らの純粋さ、情熱、豊かなユーモアに触れて一念発起、全国大会でまさかの快進撃を見せる……。 (作品ホームページから抜粋)

■解説／主人公は『オリーブの樹は呼んでいる』のハビエル・グティエレスが、監督は『モルタデロとフィレモン』のハビエル・フェセル。

私の映画KAN「ジェームス・ボンドと中学生の私」

10月31日、夜のニュースで「シヨン・コネリー」さんが亡くなったことを知りました。90歳です。この報道で思い出した出来事があります。小学校4～5年生の頃、担任が『007 ゴールドフィンガー』を見てきたときの話で、「女性が全身に金粉を塗られ皮膚呼吸できなくなり死んでいるのだ」と。聞いても何のことやらわか

らない。中学生になり、映画館に通う頃には「スパイアクションブーム」の真っ只中で「007 ジェームス・ボンド」を見てやっとわかりました。1作目 1962年 邦題「007 は殺しの番号 ドクター・ノウ」に始まり、2作目 1963年 邦題「007 危機一髪・ロシアより愛をこめて」、1964年「007 ゴールドフィンガー」、1965年「007 サンダーボール作戦」、1967年「007 は二度死ぬ」が公開されています。小学生の時、話を聞き、中学生で「007 ジェームス・ボンド」作品をみる事ができたことが良かったです。また、この時代「007 ジェームス・ボンド」以外でも欧米で「スパイアクション映画」が多く作られています。少し紹介します。フランスでは「OSS117」1963年～シリーズ8本 「スーパータイガー」1965年 イタリア「077 地獄のカクテル」1965年～シリーズ4本 「殺しのテクニク」1966年～シリーズ2本 「ドクター・コネリー／キッドブラザー作戦」1967年(主演のニール・コネリーは、シヨン・コネリーの実弟です) イギリス「殺しの免許証・ライセンス」1965年～シリーズ2本 「キスは殺しのサイン」1966年 「唇からナイフ」1966年 アメリカ「電撃フリント」1966年～シリーズ2本(主演:ジェームス・コバーン) 「サイレンサー沈黙部隊」1966年～シリーズ4本(主演:ディーン・マーティン)等、当時、垂水の映画館は3本立上映だったのでたくさん見ることができました。その中でも「007 ジェームス・ボンド」がプログラムされていると客席は満員になっていました。「銃口から見えるボンドが振り向きざま、銃を撃ちテーマ曲が流れ」秘密兵器を携え 「空」に「海」に「水中」に……世界を駆け巡り怒濤の如くクライマックスへ！もう、シヨン・コネリーに大興奮！そんな中学生でした。あれから58年。ジェームス・ボンドは新作「007 ノー・タイム・トゥー・ダイ」2020年4月10日上映予定がコロナ禍で2021年4月に公開予定です。

(クイズ) タイトルに誤字が1か所あります。どこでしょうか？ (芳)

前々回及び前回の例会報告

前回の例会報告と合わせ、前回のニュースで報告を失念していた前々回の例会の報告をいたします。

7月16日の例会は、1970年代のアメリカで、のちにアメリカ合衆国最高裁判事となったルース・ベイダー・ギンズバーグが弁護士時代に史上初の男女平等裁判に挑んだ実話をもとに描かれた『ビリーブルー 未来への大逆転』を鑑賞しました。裁判を描いた映画にもかかわらず「良かった」という感想に、テーマ・内容がわかりやすかったという意見もあるなど好評でした。参加会員820人、明石シネマクラブからの参加者はありませんでした。

9月16日の例会は、経済発展が著しいインドのムン

バイを舞台に、農村出身の若くして未亡人となったメイドとその雇い主の若者の男性との社会派ラブストーリー。ムンバイ出身の女性監督ロヘナ・ゲラの長編デビュー作でもあり、ほとんど踊らないインド映画でもありました。身分、風習、都市と農村、インドの発展などさまざまなものが織り込まれた秀作でした。参加会員89人、明石シネマクラブからの参加者9人で合計98人の参加者でした。

明石シネマクラブ例会情報

■名称/第62回特別例会

『カサブランカ』

(1942年、アメリカ、102分)

■監督/マイケル・カーティス

■出演者/ハンフリー・ボガート、

イングリッド・バーグマン、

ポール・ヘンリッド、クロード・レインズほか

■ジャンル/ドラマ・ラブロマンス

■解説/第2次世界大戦下の1941年、アメリカへ行くための寄港地だったフランス領モロッコのカサブランカ。そこで酒場を営むアメリカ人リックの元に、パリで突然消えてしまった恋人のイルザが、夫で反ナチス活動家のラズロを伴って現れる…。

「君の瞳に乾杯」ハンフリー・ボガートの名セリフで知られる 映画史上屈指の名作をスクリーンで！

■日時/12月11日(金)①PM2:00-、②PM4:30-、③PM7:00-

■場所/アスピア明石9階子午線ホール(JR明石駅東徒歩5分)

■目的・内容/加古川シネマクラブと明石シネマクラブの交流事業として、映画鑑賞の機会を増やし新入会員の増やそうと、例会に相互参加できるようにしています。

■受付/会場受付で、①加古川シネマクラブの会員であることを証明するもの(氏名が記されている例会参加券が送られてきた封筒など)を提示し、②鑑賞希望であることを告げて、③受付簿にサインする

■明石シネマクラブ TEL 090-3860-6662 (金沢まで)

ご意見をお待ちしています

映画の感想や意見など、このニュースへ記事をお寄せください。200-300字程度にまとめていただければ助かります。おすすめ作品をファックス、メールや例会会場のアンケート用紙でお知らせください。

加古川シネマクラブ 〒675-0101

加古川市平岡町新在家 752-46 B-313 山本方

TEL 090-9283-0435 FAX 079-425-4499 ※

E-MAIL cinemaclub@nifty.com

<http://kakogawacinemaclub.c.ooco.jp/>

※ファクシミリの番号が変わっています。

会員数 146人(9月18日現在)

